

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、支援学校小学部第6学年 <大阪府（公立）実施対象校数・児童数 966校 67,993人>
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、支援学校中学部第3学年 <大阪府（公立）実施対象校数・生徒数 470校 64,476人>

(3) 調査内容

① 教科に関する調査

- ・小学校等【国語、算数】
- ・中学校等【国語、数学、英語】
- ※理科は3年に一度程度の実施のため実施せず

② 質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

実施日 令和8年4月23日（木）

※中学校英語（聞くこと・読むこと・書くこと）は、4/20～4/23の期間内で指定日に実施。
中学校英語（話すこと）は、4/24～5/23の期間内で指定日に実施。

【今年度調査の特徴】

- ※教科に関する調査は、国語、算数・数学、中学校英語を実施（中学校英語は、CBT・IRT方式にて実施）
- ※児童生徒質問調査は、原則全ての児童生徒を対象に、オンライン方式により実施
- ※紙面で実施する調査の後日実施は、4月24日（金）から4月30日（木）まで実施

●今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

教科に関する調査結果

○ 国語

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	7.7問/13問	59%	3.3%
全国	7.9問/13問	60.9%	3.4%

【成果と課題】

「読むこと」では、文章を読んで理解したことを基に、自分の経験と結びつけて自分の考えをまとめることについては概ねできている。

一方、「書くこと」では、自分の考えが伝わるように情報を集めることや、条件にそって書くことに課題がある。

小学校

学習指導要領の内容		平均正答率（%）	
		大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.4	66.8
	情報の扱い方に関する事項	51.4	52.3
	我が国の言語文化に関する事項	—	—
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	63.9	65.8
	書くこと	43.8	45.7
	読むこと	65.3	65.9

【これからの学習に向けたアドバイス】

自分の考えを相手に伝えるには、まずは自分の考えの基になる情報を集めましょう。また、集めた情報を整理し、伝える相手や目的を意識して文章を書くようにしましょう。

○ 算数

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	9.0問/16問	56%	3.1%
全国	9.0問/16問	56.4%	3.2%

【成果と課題】

「数と計算」の領域では、数の仕組みの理解や基本的な計算については概ねできている。

一方、「変化と関係」の領域では、単位量当たりの大きさや割合を用いて、数量の関係を判断したり比較したりすることに課題がある。

学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率（%）	
		大阪府	全国
領域	数と計算	61.1	61.1
	図形	54.2	55.3
	測定	77.6	78.1
	変化と関係	40.6	41.1
	データの活用	48.0	48.6
評価の観点	知識・技能	59.8	60.1
	思考・判断・表現	44.9	45.4

【これからの学習に向けたアドバイス】

問題を解くときは、図や表、文章から必要な情報を捉え、数量の関係を確かめながら考えましょう。また、比べる二つの数量について、基準となる数に注目して、どちらが大きいのか、どのくらい違うのかを考えてみましょう。

○ 国語

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	9.1問/15問	61%	5.8%
全国	9.6問/15問	63.9%	4.9%

【成果と課題】

「書くこと」では、気持ちがいよ伝わるよう、表現の効果を考え、工夫して書くことについては概ねできている。

一方、「読むこと」では、文章の内容を理解したうえで、文章中の言葉を使って自分の考えを表現することに課題がある。

○ 数学

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	8.8問/16問	55%	12.3%
全国	9.1問/16問	57.0%	10.4%

【成果と課題】

「数と式」の領域では、数量の変化や状況を正と負の数で表すことについては概ねできている。

一方、「データの活用」の領域では、用語の意味を理解し、データの特徴や傾向を根拠をもって説明することに課題がある。

○ 英語

	全生徒が取り組んだ公開問題 （聞くこと・読むこと・書くこと）		IRTスコア 聞くこと・読むこと・書くこと
	平均正答数	無解答率	
大阪府	3.7問/7問	3.8%	府 498
全国	3.7問/7問	3.1%	全国 499

IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、全国平均を基準とした得点で表したものです。

【成果と課題】

日常的な話題に関する短い会話や文章を正確に聞き取ったり、書いたりすることについては概ねできている。

一方、社会的な話題に関する英文を読んで、自分の考えやその理由を書くことに課題がある。

中学校

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

学習指導要領の内容		平均正答率（%）	
		大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	60.4	63.0
	情報の扱い方に関する事項	66.8	70.4
	我が国の言語文化に関する事項	—	—
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	60.2	63.9
	書くこと	64.5	67.4
	読むこと	56.8	59.7

【これからの学習に向けたアドバイス】

文章を読んで理解するには、段落ごとに内容を捉えるようにしましょう。また、自分の考えを相手に伝える際は、文章や資料などから、その根拠となる部分を示すようにしましょう。

学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率（%）	
		大阪府	全国
領域	数と式	65.6	67.8
	図形	48.0	48.7
	関数	52.8	54.8
	データの活用	49.7	53.5
評価の観点	知識・技能	60.9	63.0
	思考・判断・表現	36.6	39.1

【これからの学習に向けたアドバイス】

データを活用するときには、用語の意味を正しく理解し、データの特徴や傾向を見出し、分かったことを整理しましょう。また、自分の考えをまとめるときには、他者の意見も参考にしながら、整理した内容に基づいて考えてみましょう。

中学校英語は1人1台端末を活用したオンライン（IRT方式）で実施。IRTとは生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。問題は、全生徒が取り組んだ問題と生徒ごとに異なった問題（公開及び非公開問題）があります。

全生徒が取り組んだ公開問題における 学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率（%）	
		大阪府	全国
領域	聞くこと	56.8	57.9
	読むこと	56.1	57.4
	話すこと ※	※	※
	書くこと	46.9	46.5
評価の観点	知識・技能	58.9	59.8
	思考・判断・表現	43.6	43.6

※「話すこと」の平均正答率は令和8年9月以降に国から結果が提供される予定です。

【これからの学習に向けたアドバイス】

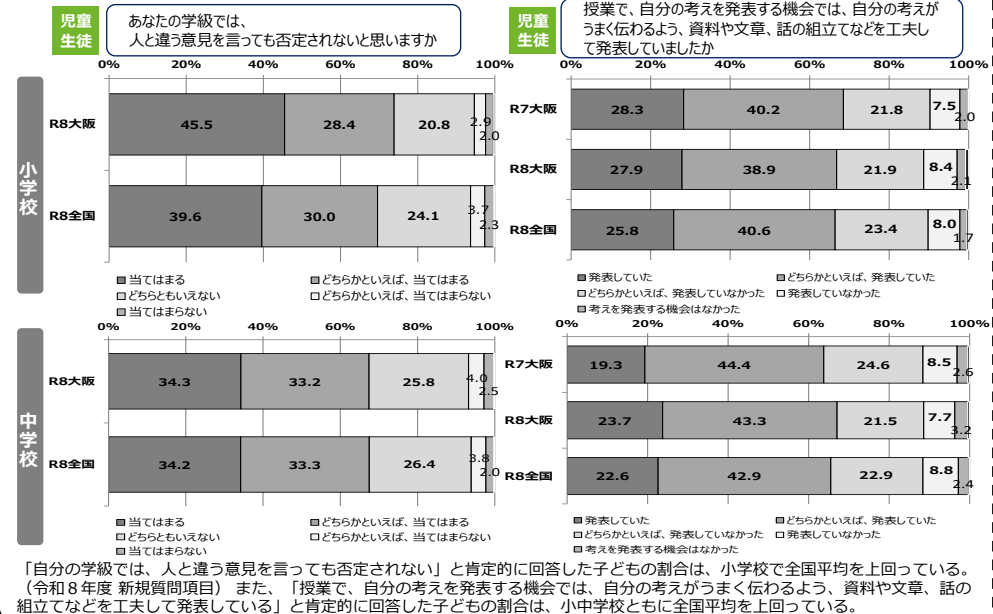
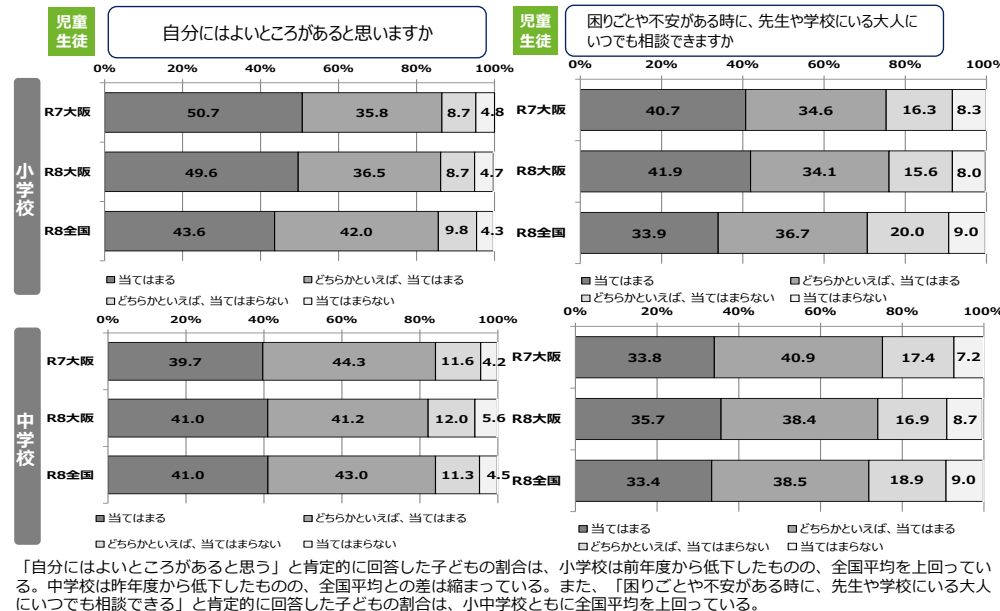
簡単な英語で書かれたニュースやSDGsなどの社会的な話題の英文を読み、「自分はどうか」「なぜそう考えるか」など、自分の意見や理由を英語で表現する練習に取り組んでみましょう。



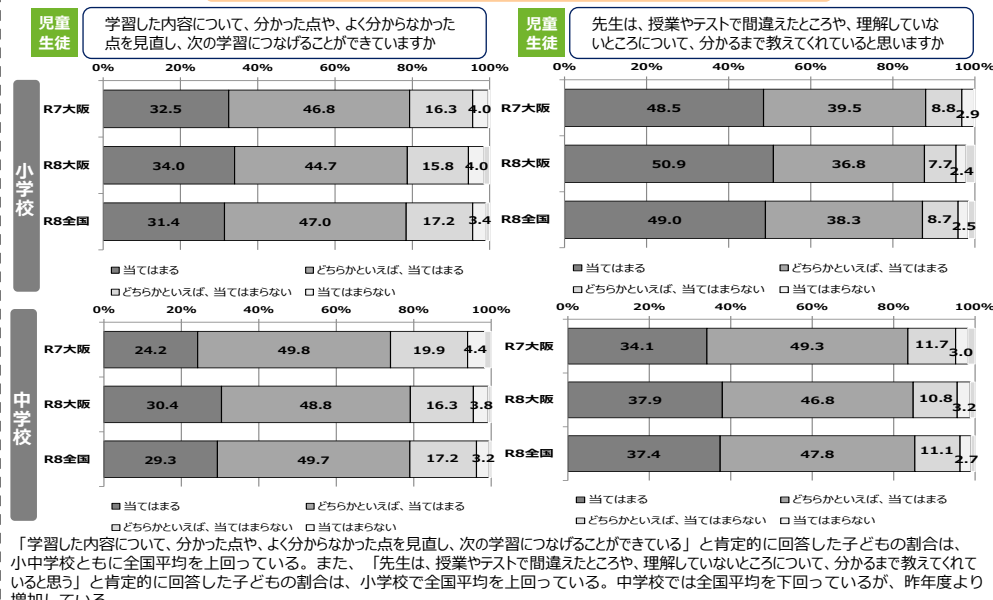
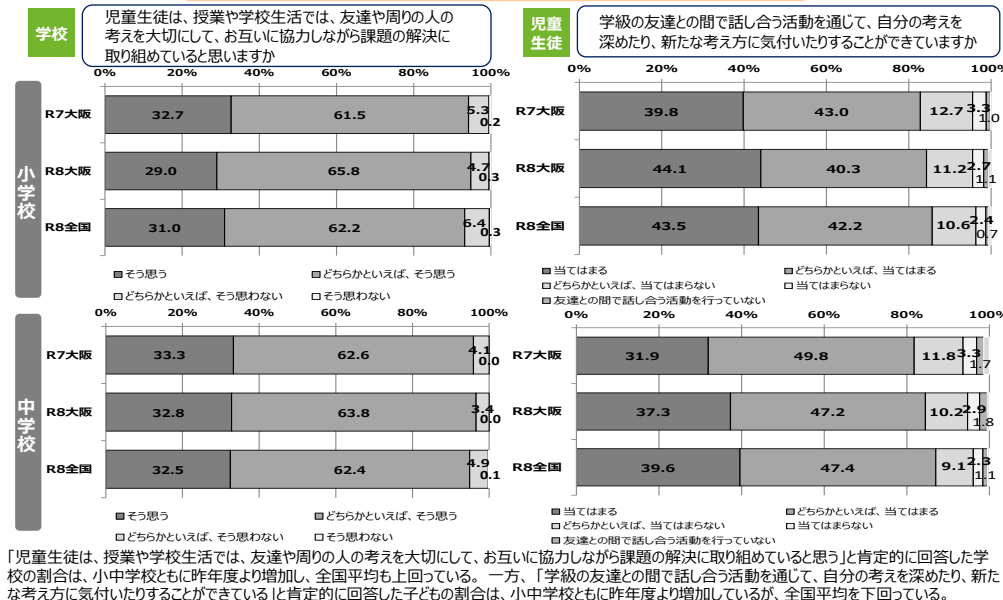
大阪府における全国学力・学習状況調査の結果概要資料はコチラのWEBページから閲覧できます。（大阪府HP）



自分の意見や考えを発表すること



学習内容の定着に向けて



※「肯定的に回答した子どもの割合」とは、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した子どもの割合の合計を表します。